

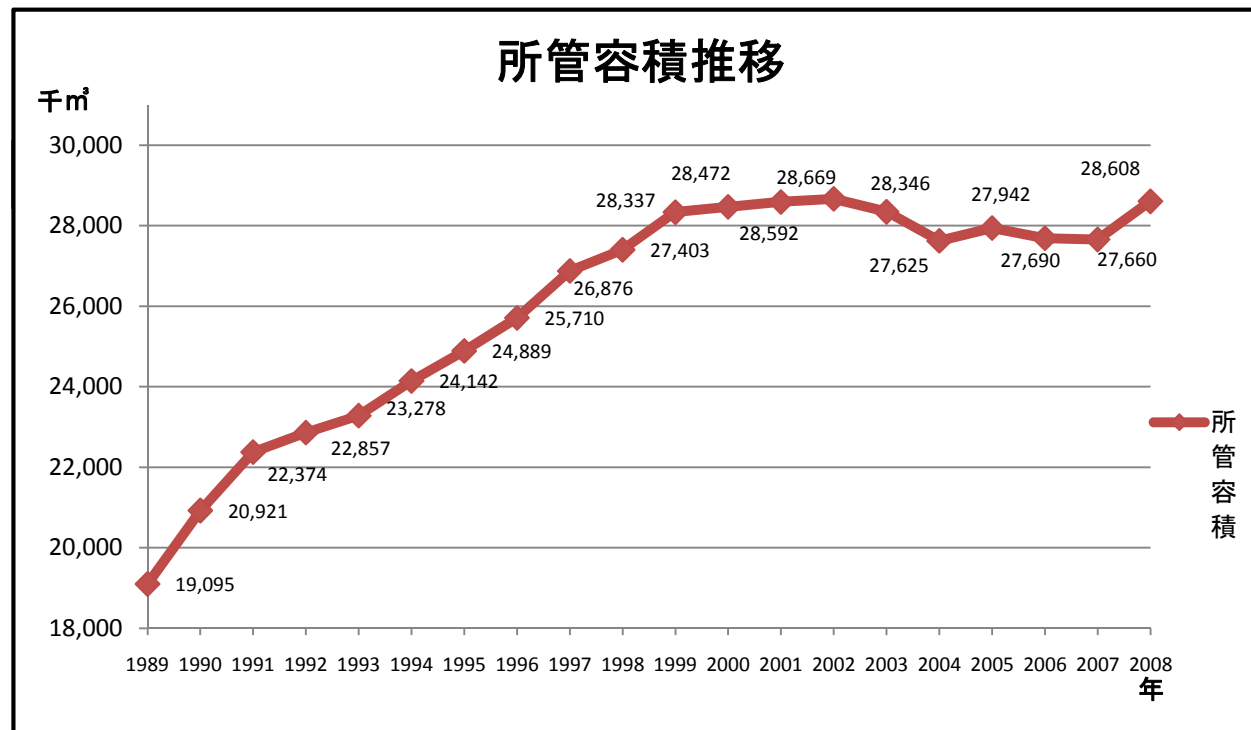
# 冷蔵倉庫基本統計(国土交通省『倉庫統計季報』より抜粋)

この資料は、国土交通省発行、『倉庫統計季報』、毎年10-12月号に掲載の12月末時点の統計を抜粋して作成しました。  
冷蔵倉庫の1989年以降の①所管容積推移、②受寄物動向(②-1年間入庫量推移、②-2年間平均保管残高推移)、③受寄物在庫率推移、④年間回転率推移 を掲載しています。

## ①所管容積推移

所管容積は、1999年まで1.8~9.5%で増加を続けたが、以降伸び率は、0.5%程度に鈍化し、28百万立方メートル台で推移した。2003年には減少に転じたが、2004年を底に再び微増、以降は横ばいが続いていた。2008年には3.4%と急増して、28百万立方メートルに至っている。

年	所管容積 単位:千m <sup>3</sup>	設備能力 単位:千トン	伸び率(%)
1989	19,095	7,638	5.85%
1990	20,921	8,368	9.56%
1991	22,374	8,950	6.95%
1992	22,857	9,143	2.16%
1993	23,278	9,311	1.84%
1994	24,142	9,657	3.71%
1995	24,889	9,956	3.09%
1996	25,710	10,284	3.30%
1997	26,876	10,750	4.54%
1998	27,403	10,961	1.96%
1999	28,337	11,335	3.41%
2000	28,472	11,389	0.48%
2001	28,592	11,437	0.42%
2002	28,669	11,468	0.27%
2003	28,346	11,338	-1.13%
2004	27,625	11,050	-2.54%
2005	27,942	11,177	1.15%
2006	27,690	11,076	-0.90%
2007	27,660	11,064	-0.11%
2008	28,608	11,443	3.43%

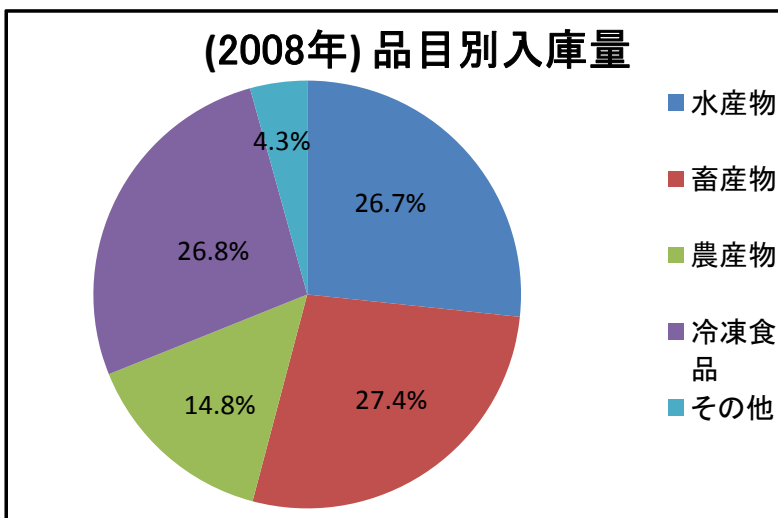
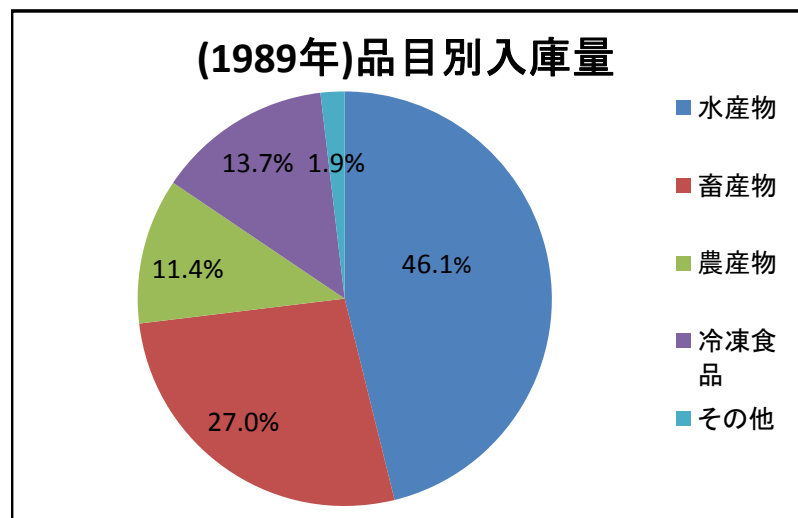
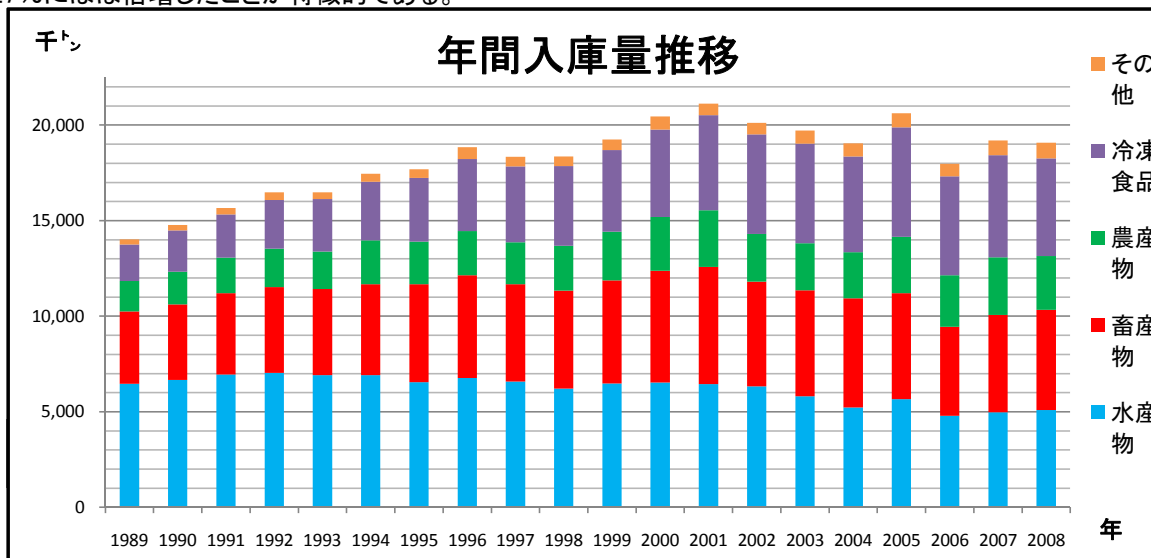


※設備能力=所管容積\*0.4で算出しております。

## ②-1)受寄物動向(年間在庫量推移)

年	水産物	畜産物	農産物	冷凍食品	その他	合計	伸び率(%)
1989	6,468	3,779	1,596	1,915	262	14,020	3.8%
1990	6,674	3,938	1,720	2,148	291	14,771	5.4%
1991	6,951	4,249	1,866	2,255	347	15,668	6.1%
1992	7,036	4,487	2,007	2,553	395	16,478	5.2%
1993	6,910	4,513	1,965	2,740	361	16,489	0.1%
1994	6,913	4,764	2,289	3,064	421	17,451	5.8%
1995	6,544	5,129	2,224	3,335	457	17,689	1.4%
1996	6,759	5,385	2,319	3,762	614	18,839	6.5%
1997	6,582	5,098	2,186	3,965	511	18,342	-2.6%
1998	6,215	5,129	2,333	4,179	498	18,354	0.1%
1999	6,484	5,384	2,550	4,267	563	19,248	4.9%
2000	6,534	5,846	2,807	4,571	687	20,445	6.2%
2001	6,453	6,120	2,970	4,973	598	21,114	3.3%
2002	6,328	5,478	2,496	5,214	608	20,124	-4.7%
2003	5,811	5,544	2,455	5,217	685	19,712	-2.0%
2004	5,229	5,704	2,423	4,999	692	19,047	-3.4%
2005	5,663	5,537	2,949	5,732	744	20,625	8.3%
2006	4,796	4,646	2,694	5,176	653	17,965	-12.9%
2007	4,972	5,101	3,001	5,352	773	19,199	6.9%
2008	5,090	5,236	2,822	5,109	823	19,080	-0.6%

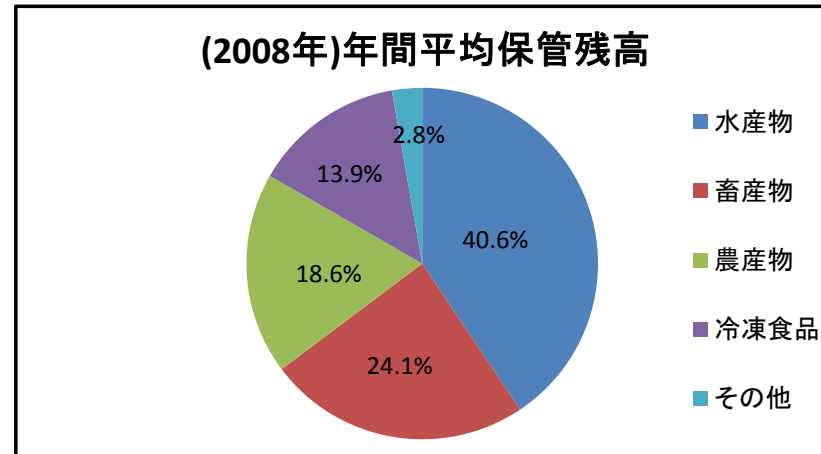
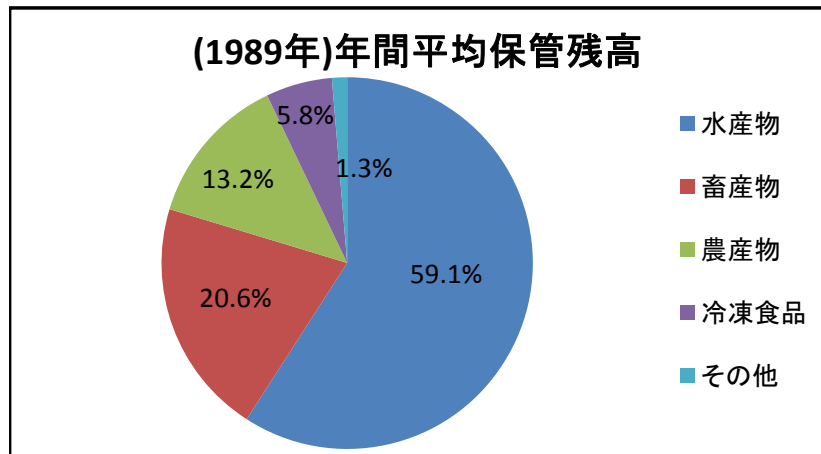
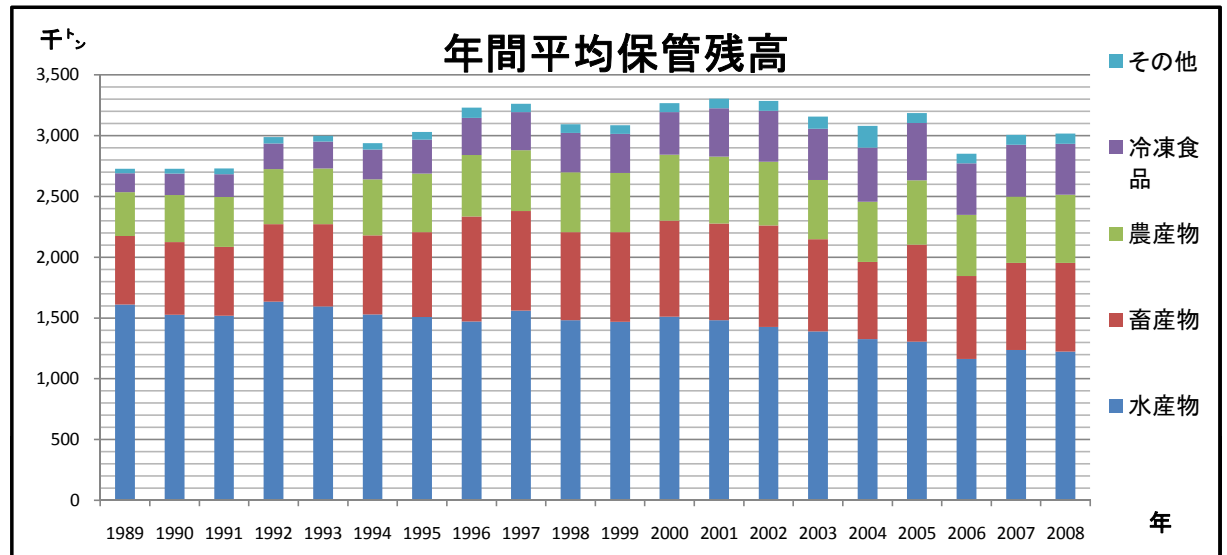
年間在庫量は、1996年まで増加を続けたが、1997年は2.6%減少、1998年以降は、再び増加に転じ、2001年に21百万トンを超えてピークとなった。以後3年間は2.0~4.7%で減少を続け、2005年の急増と翌年の急減を経て、その後は19百万トン台で推移している。  
1989年と2008年の受寄物の構成を比較すると、水産物が46%から27%に減少した一方、冷凍食品が14%から27%にほぼ倍増したことが特徴的である。



## (2)-2 受寄物動向(年間平均保管残高推移)

年	水産物	畜産物	農産物	冷凍食品	その他	合計	伸び率(%)
1989	1,612	561	361	157	36	2,727	9.65%
1990	1,526	597	387	177	39	2,726	-0.04%
1991	1,518	568	410	187	47	2,730	0.15%
1992	1,634	638	453	210	52	2,987	9.41%
1993	1,596	677	457	220	49	2,999	0.40%
1994	1,530	649	462	243	53	2,937	-2.07%
1995	1,509	696	483	278	63	3,029	3.13%
1996	1,471	864	505	307	84	3,231	6.67%
1997	1,562	818	500	314	68	3,262	0.96%
1998	1,483	722	494	323	72	3,094	-5.15%
1999	1,469	736	489	320	70	3,084	-0.32%
2000	1,511	790	541	350	75	3,267	5.93%
2001	1,483	795	550	396	79	3,303	1.10%
2002	1,426	836	522	419	83	3,286	-0.51%
2003	1,389	760	486	420	102	3,157	-3.93%
2004	1,326	635	496	445	179	3,081	-2.41%
2005	1,306	797	529	472	82	3,186	3.41%
2006	1,162	683	502	424	80	2,851	-10.51%
2007	1,238	715	546	425	81	3,005	5.40%
2008	1,225	728	560	420	83	3,017	0.38%

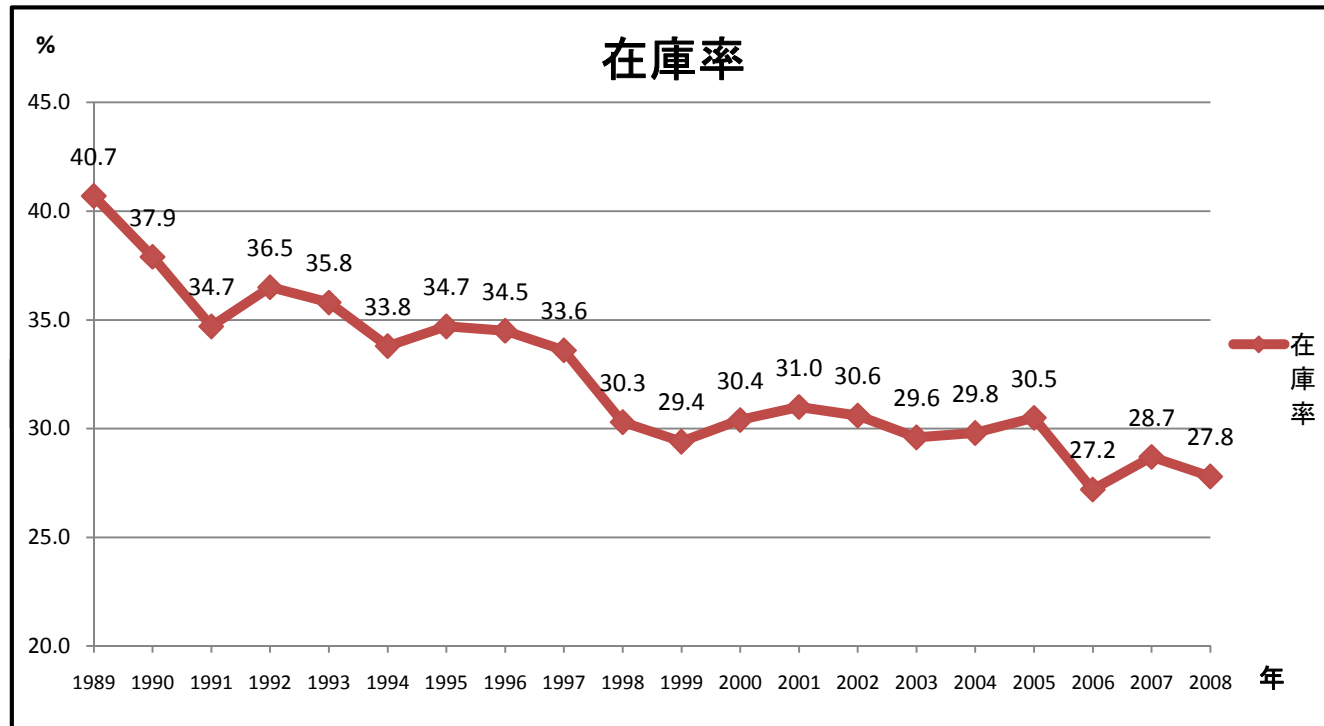
年間平均保管残高は、1989年～1991年は2.7百万トン強で推移していたが、1992年に9.4%増となり、以降は300万トン台を伺う水準が続き、1995年には3百万トンを突破した。それ以後、2005年までは、最大3.3百万トンの間で推移していたが、2006年に10.5%減少、翌年以降3百万トン前後で横ばいである。  
1989年と2008年の受寄物の構成を比較すると、在庫量と同様に、水産物の減少と、冷凍食品の大幅増が顕著である。



### ③受寄物在庫率

受寄物在庫率は、保管残高÷受寄物対象収容容積÷0.4\*100で求められる。  
 1989年の時点では、40%超であったが、10年間にわたって減少が続き、1999年には30%を割った。  
 翌年増加に転じたものの、以降は30%内外で横ばいが続き、2006年には最低の27.2%となり、その後横ばいとなっている。

年	在庫率 単位:%
1989	40.7
1990	37.9
1991	34.7
1992	36.5
1993	35.8
1994	33.8
1995	34.7
1996	34.5
1997	33.6
1998	30.3
1999	29.4
2000	30.4
2001	31.0
2002	30.6
2003	29.6
2004	29.8
2005	30.5
2006	27.2
2007	28.7
2008	27.8

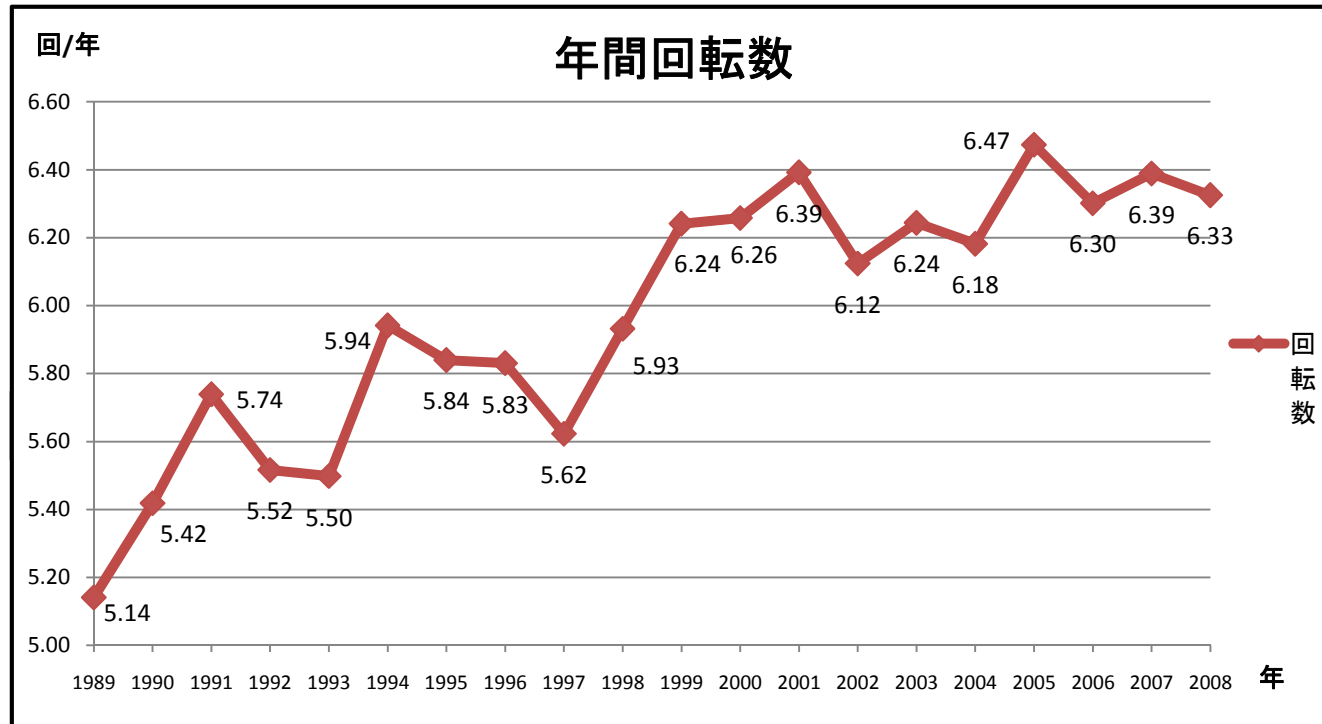


受寄物在庫率 = 保管残高 ÷ 受寄物対象収容容積 ÷ 0.4 \* 100  
 (※受寄物対象収容容積 = 所管容積 - 容積建使用容積 - 自家用貨物使用容積)

## ④年間回転数

回転数によって、受寄物の動向が把握できる。2001年までは、段階的に回転数が上昇し、2001年には、6.39回転に達した。以降、多少の増減はあるが6.2～6.4回転で推移している。これは荷主が在庫を持たない傾向にあることを示している。

年	回転数
	単位:回/年
1989	5.14
1990	5.42
1991	5.74
1992	5.52
1993	5.50
1994	5.94
1995	5.84
1996	5.83
1997	5.62
1998	5.93
1999	6.24
2000	6.26
2001	6.39
2002	6.12
2003	6.24
2004	6.18
2005	6.47
2006	6.30
2007	6.39
2008	6.33



年間回転数 = 年間入庫トン数 ÷ 年間平均在庫トン数